

平成29年 3月 3日

平成28年度東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書

1. プロジェクト名

歴史都市デリーの都市開発と遺跡保存-東京大学インド史蹟調査団 HP の改訂と2015年度調査結果の HP 立ち上げ

2. 申請研究者

(氏名) 榎屋友子 (東洋文化研究所教授)

共同研究者

(氏名) 深見奈緒子 (日本学術振興会カイロ研究連絡センター・センター長)

山根聡 (大阪大学・教授)

山根周 (関西学院大学・准教授)

山田協太 (京都大学地域研究統合情報センター・特任助教)

宍戸克実 (鹿児島県立短期大学・准教授)

3. 研究期間

平成28年4月1日から平成29年3月31日 (1年間)

4. プロジェクトの趣旨、全体計画 (400字程度)

本プロジェクトは、平成27年度東洋学研究情報センターの共同研究「歴史都市デリーの都市開発と遺跡保存-東京大学インド史蹟調査団の再評価からの再評価からの中世インド建築史」を継承する。1959年から61年に実施された東京大学インド史蹟調査団の資料に基づき、2015年度に上記共同研究によってそれぞれの遺構の現況を調査した。

本プロジェクトにおいては、東洋学研究情報センターの既存の東京大学インド史蹟調査団データベースを改訂するとともに、2015年度の調査結果を公開していくことを第一の目的とする。さらに2015年度デリー調査の補充調査を行う。

プロジェクトの継続期間において、中世インド建築を考える上で好対照をなす、地方建築の資料を充実したい。共同研究者、深見、山根周他の所蔵する、調査写真資料を比較対象として整理し、公開の方法を考える。また、デカン調査を行い、その結果を公開していきたい。

5. 今年度の研究実施状況 (400字程度)

1) 既存データベースおよび新規 HP について

①既存のデリーのデータベース;字句、写真等に誤りがあるので、修正を行うとともに、

上記 2015 年度の共同研究によって翻訳を行った英文（墓、墓建築）を付け加える。
また新たに英文翻訳（水利施設、その他の建造物）を行う。

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/delhiphotosearch/index.html>

- ②2015 年調査の結果を掲載した HP を、和文と英文で新たに作成する。これは、遺跡別のページとして作成し、現況の記述、写真、図面を掲載する。また、地域としての視点も重要なので、複合建築としての存在、加えて google earth や google map 等とのリンクも考慮する。
- ③既存データベースと新たな HP をリンクさせる。
- ④ただし、件数が多いので、①から順に進め、今年度中には、②の半分までの完成を目指す。

2) 上述②のための図化、および資料整理

2015 年度の調査結果は、写真、記述、図面の 3 種類であるが、未だ未整理な部分も多く、公開のための資料整理を完成させる。

3) デリーの補充調査

2015 年度には、385 件中、3 件を除いて全ての遺構の所在地を尋ねた。しかしながら、住宅開発等によって、所在を確かめることができない遺構も数多く存在した。平成 28 年度にはデリーの補充調査を行い、未踏査の遺構に加え、所在確認のできていない遺構の再調査を行う。

6. 今年度の研究成果の概要（400 字程度）

1) 既存データベースおよび新規 HP について

- ①既存のデリーのデータベースについて、字句、写真等に誤りを洗い出し、訂正ファイルを作成した。ただし、HP 上での修正は未着手である。英文翻訳（水利施設、その他の建造物）を実施したので、上記 2015 年度の共同研究によって翻訳を行った英文（墓、墓建築）と合わせて旧来のデータベースに付け加える作業は、次年度の課題である。

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/delhiphotosearch/index.html>

- ②2015 年調査の結果を、Google Maps の機能を用いて作成した。Google Maps 上に遺跡別に座標を設定し、現況の記述、写真、図面を掲載した。385 件の遺跡に関して、インド史跡調査団の和文記述および英文記述、2015 年調査の和文記述、インド史跡調査団（1960 年代）と 2015 年それぞれの代表写真、図面のあるものについてはインド史跡調査団の図面（計 51 点）と 2015 年の図面（計 130 点）を掲載した。なお、現在は座標軸の関係で英文と和文が同ページに記載されているが、英文と和文を分割させること、2015 年調査の英文記述を作成することが次年度の課題である。
- ③既存データベースと新たな Google Maps のリンクを考えていたが、これは次年度の課題である。

2) 上述②のための図化、および資料整理

2015年度の調査結果は、写真、記述、図面の3種類で、公開のための資料整理を完成させた。写真は遺跡の物件ごとにフォルダーに整理した。2015年調査の図面に関しては、昨年度の30に加え、今年度の100点を加えた。

3) デリーの補充調査

今年度は補充調査ができなかったため、次年度以降、未踏査の遺構に加え、所在確認のできていない遺構の再調査を行いたい。